

令和3年度自己評価結果公表シート

幼保連携型認定こども園せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園

1、本園の教育目標

園児一人一人の存在そのものを尊重し、個性を大切に教育により自己肯定感を育てると共に、人と関わる良さ、自然と関わる良さを十分に経験し、意欲的に力強く生きる力を育てる。

本年度、重点的に取り組む目標・計画

これまでの自己点検・評価の結果や年度末の保護者アンケートも踏まえて下記の点について重点的に取り組む。

1. 子ども理解に基づくカリキュラムマネジメント

月ごと行事ごとに子どもの育ちの姿を抽出し、期ごとの育ちや力を整理する。育ちのつながりを探り環境や関わりのあり方を考え、教育・保育の充実を図る。

2. 表現領域の育ちに合った素材・題材研究

表現領域に関する育ちを鑑み、想像力豊かにイメージを膨らませ表現できるように、音環境の工夫・道具・素材を工夫する

3. 仕事の効率化

ICT システムを活用し、書類作成時間の短縮や、情報共有のための資料作成を省略化する。保育後のスケジュールを調整し、打ち合わせ時間や保育準備時間の確保と見直しをもって仕事を終えるためのスケジュール調整を工夫。

4. 園の保育理念の理解推進を図る

ドキュメンテーションやポートフォリオに加え、ICT システムを利用した保護者への配信システムを使い、保育の取り組みや子どもの育ちを可視化し、保護者の理解を深める。保護者と子どもの育ちを共有し、共に育ちを支える。

2、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1. 子ども理解に基づくカリキュラムマネジメント 月ごと行事ごとに子どもの育ちの姿を抽出し、期ごとの育ちや力を整理する。育ちのつながりを探り環境や関わりのあり方を考え、教育・保育の充実を図る。	昨年作成した期案と、今年度のこどもの姿にずれがないかを確認し、修正が必要な場合は修正または追記し、次の期の計画につなげた。3～5歳の育ちの中から、項目ごとに育ちの推移を並べ、子どもの姿から育ちの道筋の理解につなげた。
2. 表現領域の育ちに合った素材題材研究 表現領域に関する育ちを鑑み、想像力豊かにイメージを膨らませ表現できるように、音源の工夫・道具・素材などの環境を工夫する	絵画や音楽の活動に際し、子どもがイメージを豊かに広げることができるように、環境の工夫や教材を工夫し、表現活動の育ちにつなげていった。
3. 仕事の効率化 ICT システムを利用し、書類作成時間の	Google ドライブを利用し、資料を共有しながら、会議や打ち合わせと同時に書類を仕上げ、時間短縮につなげ

<p>短縮や、情報共有のための資料作成を省略化する。保育後のスケジュールを調整し、打ち合わせ時間や保育準備時間の確保と見通しをもって仕事を終えるためのスケジュール調整を工夫。</p>	<p>ることができた。保育後のスケジュールを調整し、打ち合わせ時間や保育室の準備時間を決めて学年ごとに見通しをもって主家ジュール調整をし、仕事の効率化を図り、幼児教育・保育の専門性を高めるための時間を確保できた。</p>
<p>4. 園の保育理念の理解推進を図る</p>	<p>従来のドキュメンテーションやポートフォリオに加え、今年度も ICT システムを利用し、日々の子どもの様子を写真で保護者に配信した。また、広報担当職員が、保育の様子を日々更新したことにより、活動内容を保護者に伝えることができ、保護者の理解が深まった。様々なことをタイムリーに発信することで、保育活動や PTA 活動においての保護者の協力が多く得られた。また、子どもの育ちを共有し、共に育ちを支える姿勢も見られた。</p>

3、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>昨年に引き続き、コロナ感染対策をしながらも、子どもの育ちを支えていくために、活動や行事のありかたを工夫した。懇談を ZOOM か対面かを選択できるようにし、一日ホームクラスや給食当番など Google フォームやエアリザーブ等を使って予約を取るシステムに変更した。</p> <p>こまめにドキュメンテーションやポートフォリオやクラス写真を配信し、園長副園長通信などで、その時期や行事に対する園の方針や考え方を説明してきたことにより、保護者より園の理念や保育に関する理解を得ることができた。</p> <p>行事に関しては、様々な感染対策をしながら、学年ごとの開催や、場所を変更して園での宿泊保育など、すべての行事の形を変えて実施することができた。それら全てのことが、結果的に子どもの豊かな育ちに繋がり、保護者の理解を得ることができた。そして例年以上に、子どもたちの非認知的能力の育ちにつながったことを振り返り、来年度も、行事や活動の形を変えて、子どもの育ちを支えていくことを考えている。</p> <p>また、本年度も、1年間を通して子ども理解を中心とした園内研修や支援児のカンファレンスに取り組み、個々の保育者が子どもの思いを理解することから、環境の構成、教材の準備、保育者の関わり等を考えていくことができた。また、非常に見えにくい幼児期の育ちを家庭と共有するために様々な方法(ポートフォリオ・ドキュメンテーション・ICT システム・コンセプトブック等)により伝えていった結果、個々の子ども育ちを良さとして肯定的に観ると共に 3 年間の育ちのイメージを共有することができた。また、ホームページの「今日このごろ」を日々更新することにより、保育内容や子どもたちの活動の様子を保護者に伝えることができ、園の日々の活動に対する保護者の理解が深まった。</p> <p>コロナ禍の中の園の取り組みが、保護者より高く評価され、アンケート結果の高評価につながっていたと思われる。年度末に実施した全家庭対象のアンケートでは、「1. せんりひじり幼稚園の教育について・・・」の設問で「とてもよかった」・「よかった」の合計が99%という結果になった。今後も子どもの育ちを可視化し、各家庭へ教育内容の理解を図る努力を続けていきたい。</p> <p>今後も、子どもの育ちから始まる保育計画を立て、人生の基礎を培う幼児教育の重要性を常に意識して教育の質の向上に努めていきたい。</p>
--

4、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
若手保育者の育成	1年目保育者の教育課程を見直し、その時の個人に合わせて対話をしながらサポートしていく。
開かれた教育課程(写真の教育課程)	写真の教育課程を再編成し、1年間の育ちを保護者が理解できるように懇談等で開示する
子どもの姿に合わせた保育環境の充実	その時期の子どもの興味や育ちに合わせた保育環境を工夫し教材を充実させる。
子どもの世界を拓く環境の工夫	SDGsなど、園内だけでなく自然界や世界にも目を向け、自然環境や生活環境に興味を持てるように機会を作ったり、環境を用意したりする。

5、学校関係者の評価

- ICT システムを使って小まめに子どもの様子の配信や、ポートフォリオ、園だより、ホームページ等様々な方法での発信のおかげで、保育内容や教育方針の理解が深まった。
- コロナ感染防止のために、様々な行事のありかたを工夫したことが、子どもの豊かな育ちに繋がり、保護者からの信頼を得ることができた。
- コロナ感染防止のために PTA 活動をスリム化したことで、保護者の負担感は減少したが保護者同士の関係性を築き、子育てを支え合うという点では、今後の課題となる。
- ホームクラスの利用希望者が増加し、新2号の利用枠も設けたが、一般の保護者は利用しにくい状況は続いている。そのために入園をあきらめるといった声も聞こえてきたため、ホームクラスでの生活の仕方を工夫し、来年度は、新2号と一日ホームクラスを別の保育室で預かり、より多く利用できるような工夫をすることにした。

7、財務状況

公認会計士による年間4回の監査において、園児募集が順調であり、耐震化に伴う大規模改修、建て替え工事のための借入金も順調に返済が進む等、財務状況は良好であるとの指摘を受けている。